

令和 7 年度

運 営 に 関 す る 計 画
【最終評価】



大阪市立東都島小学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○学校が子どもたちにとって安心して成長できる場であるために、学校全体で問題意識を共有し、家庭・地域・関係諸機関と連携しながら取組を進めてきた。その成果は表れてはいるものの、児童を取り巻く環境の変化は目まぐるしく、今後も様々な課題を敏感に把握し、迅速かつ組織的に対応するとともに、問題を未然に防止するため改善していくことが求められている。

また、子どもたちの心の状態にもしっかりと目を向ける必要がある。学校へ行き渋る児童や、友だちとの関わりが難しい面も見られ、子どもたちが不安定な心理状態にあるとも考えられる。教職員が連携し、子どもたちにしっかりと向き合い、子どもたちの異変にすぐに気づき対応できる体制を維持する必要がある。あわせて、教職員が子どもたちとしっかりと向き合うことができるためにも、ゆとりを確保しながら教育活動を進めることも課題である。

将来にわたってたくましく生き抜く力を育むためには、基本的な生活習慣、そして基礎的・基本的な内容の習得(基礎・基本の学力)を定着させ、人を思いやる心や人と関わる力を育むことが大切だと考える。

そこで本校としては、意図的・計画的に深い学びとなる取組を教職員が協力・連携して組織的に行い、新しい学びの教育環境を効果的に継続的に活用しながら進める必要がある。学力と同時に、健やかに力強く生き抜くための体力についても、狭い運動場で様々な知恵を用いて向上させる必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ①小学校学力経年調査(校内調査)における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ②小学校学力経年調査(校内調査)における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(出席日数の増・ICTの活用による学習活動や学校とつながる回数の増、養護教諭やスクールカウンセラーなど学校内外の専門的な相談につながる)

- ④小学校学力経年調査（校内調査）における「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 92%以上にする。
- ⑤小学校学力経年調査（校内調査）における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ②小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ② 小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、 広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。
- ④校内調査の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ⑤小学校学力経年調査（校内調査）における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする
- ⑥小学校学力経年調査（校内調査）における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ①授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕
- ②校内調査の児童アンケートにおいて、「I C T 機器（大型画面）やパソコンを使った授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。
- ③第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1（1 か月の時間外勤務時間 45 時間以内）を満たす教員の割合を 75%以上にする
- ④小学校学力経年調査（校内調査）における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査（校内調査）における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ② 小学校学力経年調査（校内調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。
- ③ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
（出席日数の増・ICTの活用による学習活動や学校とつながる回数の増・養護教諭やスクールカウンセラーなど学校内外の専門的な相談につながる）
- ④ 小学校学力経年調査（校内調査）における「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 92%以上にする。
- ⑤ 小学校学力経年調査（校内調査）における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ② 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ③ 小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。
- ④ 校内調査の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ⑤ 小学校学力経年調査（校内調査）における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする
- ⑥ 小学校学力経年調査（校内調査）における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし 事務局が定める学校行事等 ICT活用が適さない日数を除く〕

- ②校内調査の児童アンケートにおいて、「ＩＣＴ機器（大型画面）やパソコンを使った授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。
- ③第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１（１か月の時間外勤務時間 45 時間以内）を満たす教員の割合を 75%以上にする
- ④小学校学力経年調査（校内調査）における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

子どもたちが安心して通うことができる学校をめざし、子どもの異変にいち早く気づき対応できる体制づくりや、子ども同士が互いに尊重し合うことができる人間関係を築くための組織的な指導を継続した。いじめの把握した事案にはすべて対応し、解決または解決に向かって進めることができている。小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 77%ではあるが、校内調査における全児童の肯定的な回答は 96.4%となっている。いじめがいけないという気持ちはほとんどの児童がもっている。

不登校児童については、今年度のはじめは 6 名いたが、6 年児童 1 名が登校できるようになり、16.7%改善した。だが、新たに 5 年生 3 名、6 年生 1 名が登校できにくくなった。今後も粘り強く取り組む必要がある。

「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、小学校学力経年調査では 90%と前年度と同じく成果は出ている。

「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合は、小学校学力経年調査で 80%となり目標を達成している。さらに自尊感情を高める取組を進めたい。

経年調査平均正答率の全国比は、6 年国語-0.03 算数-0.08、5 年国語+0.03 算数-0.06、4 年国語-0.06 算数+0.11 であった。正答率が高いが、全体的に下がる結果となった。

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は 38%と目標を達成している。引き続き話し合い活動を様々な学習場面において取り入れ、自分の考えを深める学習ができるように取組を進めたい。

「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合も、91%となり目標を達成することができた。今後も ICT 機器の活用やサポーター等の支援員を活用して、個に応じた指導や体感できる授業を心がけ、わかりやすい授業づくりを工夫する。

今年度時間外労働時間の削減に取り組み、時間外労働時間 45 時間以内を全教職員で達成することができた。(100%)

大阪市立東都島小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ① 小学校学力経年調査（校内調査）における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。 経78%校85% ② 小学校学力経年調査（校内調査）における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的に「そう思う」と回答する児童の割合を 80%以上にする。 経77%校85% ③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 （出席日数の増、I C Tの活用による学習活動や学校とつながる回数の増、養護教諭やスクールカウンセラーなど学校内外の専門的な相談につながる） 6 名中 1 名改善 16.7% ④ 小学校学力経年調査（校内調査）における「学校のきまり（規則）を守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を 92%以上にする。 経91%校93% ⑤小学校学力経年調査（校内調査）における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 経80%校84%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・児童が違いを認め合い、互いに尊重し合える人間関係を築くことができるよう組織的な指導を行う。 指標 ・毎月 1 回の共通理解の場の設定や校務支援システムを活用した情報共有を実施する。 ・スクリーニングの定期的に実施する。 ・いじめ対策委員会を定期的に開催する。	B
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・児童が相談しやすい環境を作り、児童の変化に気づき素早い対応をする。また、場合に応じて関係諸機関とも連携し、サポートできるようにする。 指標 ・児童の実態把握を強化する（心の天気・相談機能の確実な実施）。 ・1 年と 4 年で児童虐待防に関する学習を年 1 回行う。	B

取組内容③【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 ・日々の学習や特別活動などの取組の中で、「なぜそのきまりがあるのか」「きまりを守ることの大切さ」に重点を置き、計画的に道徳教育を実践することによって、きまりを守ることについての意識を高める。 ・「学習ガイド」「生活ガイド」の作成・配付により、児童が守るべきルールを職員・児童・家庭に周知し、守ることができるように指導する。 指標 ・生活目標を児童朝会の際に毎回確認し、それぞれのきまりが決められている理由を考えたり、毎月のきまりを守ろうとする意欲を高めたりする。 ・学期に１回、各学級で「学習ガイド」「生活ガイド」に沿って学校生活を行うことができているか振り返る時間を設ける。	B
取組内容④【基本的な方向２ 豊かな心の育成】 ・「個性の伸長」や「自分のよさを認める」という内容について重点的に指導することによって、自己肯定感を高める。 ・学級活動や帰りの会など、様々な場面でお互いのよさを認め合う活動を取り入れ、児童の自己肯定感を高める。 指標 ・学期に１回、自己肯定感を高めたり、自己理解を深めたりすることができる取組を各学級で行う。 ・年２回キャリアパスポートで自己を振り返る項目を活用し、自己のよさを見つめさせる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・年度当初の計画通り遂行されている。 ・月に１回の生活指導部会で定期的に共通理解が図られ、ワードファイルにまとめていることで、いつでも見返すことができた。 取組内容② ・心の天気を継続して行うことができた。不登校や友だちとの関係に悩み登校渋りをする児童が多くいたが、保護者との連携をしっかりと取り、児童の状態把握をし、指導や支援に活かすことができた。 取組内容③ ・ルールを守れていない場面があり、その都度、生活指導部会などでルールの確認を行った。 ・生活目標を児童朝会の際に毎回確認することで、きまりを守ろうとする意識は、ある程度高まってきている。 取組内容④ ・キャリアパスポートや道徳科、各学級での実践などで自己肯定感を高める実践を行うことができた。 ・児童に対して自己肯定感を高めることができるような声掛けを心掛け、乱暴な言葉が耳に入	

ってきた時にはその場で注意を行った。

- ・児童会でも時間の制約がある中で、最大限交流を深めようとする時間がとられている。

次年度への改善点

取組内容①

- ・気になる児童にどう関わるかの教職員の話し合いはもたれていない。全教職員で共通理解し、関わるようにする。
- ・学年によって、児童の様子の共有が不十分であったと感じる。学級で起こった小さなことも、学年や学校で共有する意識を高めるようにする。チーム担任制への移行も見据えて仕組みを考える必要がある。
- ・いじめの内容が、SNSの普及により見えにくくなっている傾向にあるとの指摘があるので、注意して見守っていく必要がある。高学年を中心に SNS についての学習を年間指導計画で位置づける。

取組内容②

- ・スクールカウンセラーとタイミングが合わず、児童のことについて話をする時間があまりとれていない。スクールカウンセラーと情報を共有できる場面や方法を考える。
- ・心の天気の入力ができていない児童への声かけは引き続き必要である。
- ・心の天気からは児童の心の状態の把握はできづらい。相談機能の確実な実施というのは具体的に分かりづらいので、他の方法や指標を検討する。
- ・高学年は教員に相談するという意識が薄いように感じるので、友だち感覚ではない、教員と児童の信頼関係を築く。担任だけでは気づかないこともあるので、担任外や特別支援の担任、支援員さんともコミュニケーションを取り共通理解を図るようにする。

取組内容③

- ・学校内でのきまりやルールについては、一つ一つ整理中だと感じる。引き続き、決めるべきところについてはその時の状況に応じて話し合っていくことが必要である。曖昧なきまりがあるため、統一する必要がある。ルールの可視化が必要である。すぐに確認できるようにしておく。
- ・ルールが形骸化していないか確認し、意識化・改善する。
- ・休み時間や放課後、下校までの様子をより丁寧に見守り、指導する必要がある。

取組内容④

- ・高学年になるにつれ、自尊感情が低くなるため、様々な場面で取り組みが必要。
- ・引き続き、各学年や学級のカラーを活かしながら、取組を進める。実践や振り返りの時間をどう進めているかを有志で共有できるようにしてもよいのではないかと考える。

大阪市立東都島小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。 4 年:-0.06 5 年:+0.03 6 年:-0.03 ② 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。 4 年:+0.11 5 年:-0.06 6 年:-0.08 ③ 小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 35%以上にする。 経38%校44% ⑤ 校内調査の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。校91% ⑥ 小学校学力経年調査（校内調査）における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 65%以上にする。経72%校70% ⑦ 小学校学力経年調査（校内調査）における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 92%以上にする。経96%校95%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の増加】 ・国語科を研究教科として位置づけ、文章から必要な情報を読み取る力の育成をめざす。 指標 ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における国語科の読むことの正答率を、いずれの学年も 70%以上にする。	B
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の増加】 ・個に応じた分かりやすい授業を行うことにより、子どもの習熟度を高める。 指標 ・令和 7 年度の児童アンケートにおける「授業はわかりやすい」と保護者アンケートにおける「子どもは、学習の内容を理解している」の項目について、肯定的に答える割合を 80%以上にする。	B

取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ・かけあし週間などの取組や遊具の活用により、運動に親しむようにするとともに、外部講師を招き運動能力の向上を図る。	
指標 ・体育的強調週間を年2回、運動集会を月1回行う。 ・外部講師を年間1回以上招く。 ・令和7年度の体力テストにおける合計点の平均値を前年度より3ポイント向上させる。	B
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ・朝食の大切さについて考え、給食だより・保健だよりなどを活用し、規則正しい生活をする事の大切さについて考えることができるようにする。	
指標 ・年間1回以上、栄養指導や保健指導の際に規則正しい生活についての啓発を行い、月に1回給食だより・保健だよりを発行する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・校内研究の成果を日々の実践に活かしてきた。例えば、自分の思いや考えを書くためのワークシートや掲示物を工夫し、読み取る力の育成に努めた。読み取りが難しい際は、重要な言葉を見つけ、伝えたいことが何かを一緒に考えるようにしている。 ・単元テストの結果からは、読み取りの力がついてきていることがうかがえる。 取組内容② ・児童の実態を共有するため、担任と支援学級担当・専科担当と連携し、個に応じた指導を行うことで、習熟度を高めることができた。 ・保護者アンケートで「子どもは、学習の内容を理解している」の項目が89.1%となり、昨年度より9ポイント上昇し、指標に対して数値が上回った。計画通り遂行できた。 取組内容③ ・体育的強調週間を年2回、運動集会を月1回以上行った。また、外部講師を招いて運動能力向上事業を年2回以上行った。各週間や外部講師の先生の指導により、運動に対しての子どもたちの意欲的な姿勢が見られ、学習意欲も向上した。体力テストにおける合計点の平均値は、昨年度より、男子は0.1ポイント、女子は0.6ポイント上昇した。 取組内容④ ・月に1回、保健だよりや給食だよりを発行し、健康と食の大切さを指導したことで、児童たちの意識が高まった。また、栄養指導やたよりの配付以外にも、給食カレンダーや給食試食会での保護者への講話等でも啓発に努めた。	
次年度への改善点	
取組内容① ・今年度の取組を継続して進める。 取組内容② ・引き続き、分かりやすい授業をするよう指導力の向上に努める。	

取組内容③

・かけ足や縄跳び週間は指導の内容を既存のものを使うのではなく、毎年よりよく変更していく観点も必要である。また、外部講師による指導内容を学年毎に系統立てを行い、計画的に行うことも必要ではないか。日常的にも、1日1回は外遊びを促すなど、体を動かすことをどの児童も意識することができるように取組を進める。

取組内容④

・今後も、児童のみではなく、保護者への啓発も継続もして行う。規則正しく生活するために、朝食も含め、今後も取組を継続する。

(様式例 2)

大阪市立東都島小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。〔ただし事務局が定める学校行事等 I C T 活用が適さない日数を除く〕 R 7 : 55% ② 校内調査の児童アンケートにおいて、「I C T 機器 (大型画面) やパソコンを使った授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、90%以上にする。 校 89% ③ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 (1 か月の時間外勤務時間 45 時間以内) を満たす教員の割合を 75%以上にする。 R 7 : 100% ④ 小学校学力経年調査 (校内調査) における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。 経 64% 校 75%	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 D X (デジタルトランスフォーメーション)】 ・ I C T 機器・コンテンツ・学習アプリの日常的な活用を通して、情報活用能力 (I C T スキル・情報リテラシー) の向上に取り組む。	B
指標 ・ 児童アンケートの「I C T 機器 (大型画面) やパソコンを使った授業はわかりやすい」の項目について、肯定的に答える児童の割合を 85%以上にする。	
取組内容②【基本的な方向 6 教育 D X (デジタルトランスフォーメーション)】 ・ 年に 1 回以上校内研修会を実施し、指導力の向上をめざし、全学年が I C T を活用した授業をする。	B
指標 ・ 年間 1 回以上 I C T 機器の活用に関する校内研修会を行う。	

取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・個々の仕事量を調整し、時間外労働時間削減を意識しながら計画的に業務を行う。	B
指標 ・閉庁時刻を 19 時に設定することや、ゆとりの日の設定、授業時間の削減、行事の精選を行う。	
取組内容④【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 ・毎日の図書館開放、定期的な学級文庫の入れ替え、読書タイムの設定、ボランティアひまわりによる読み語りや絵本広場の設定等を行い、児童が読書に親しむことができるようにする。 ・児童が興味のある書籍の購入や定期的な蔵書点検、季節に合わせて本棚を入れかえなどをして読書への意欲が湧くように図書室の環境を整える。また、読書イベントを行い、図書室により多くの児童が足を運ぶようにする。	B
指標 ・令和 7 年度の小学校学力経年調査・校内調査の「読書が好きですか」の項目について肯定的に答える児童の割合を 77%以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・一人一台端末の環境を最大限に活かし、毎日 ICT 機器を授業や活動に導入している。特に Canva などのアプリを柔軟に取り入れることで、児童が端末に触れる機会が増加した。また、授業において、学習課題や演習問題を PowerPoint で資料化し、これらを教室の大型モニターに提示することで、口頭のみを指示を避け、見て理解できる視覚的な分かりやすさを徹底している。これらの取り組みにより、児童アンケートでは「ICT 機器やパソコンを使った授業はわかりやすい」という肯定的な回答が 89%に達した。約 9 割の児童が ICT 活用のメリットを実感しており、学習意欲の向上に大きく寄与している。 取組内容② ・ICT 活用研修を実施した。 ○7/25 スカイメニューと canva の導入事例の紹介 ○7/29 google classroom 研修 取組内容③ ・閉庁時刻やゆとりの日を意識し、計画的に業務を進めることで残業削減に取り組んだ。授業時数や会議時間の縮小、空き時間の活用などの目標に沿った取組が進んだ一方で、行事や業務量が多い時期には実践が難しく、家庭での作業が発生するなどの課題も残っている。 取組内容④ ・児童アンケート「読書は好きだ」の項目について肯定的に回答する児童の割合は約 75.8%で、目標としていた数値を下回ったものの、昨年の 71%は上回ることができた。 ・図書委員会の児童による様々な読書イベントや毎日の図書館開放の実施、ボランティアひまわりによる読み語りや絵本広場の設定、学校司書による図書の時間の読み聞かせなど、児童の読書への関心を高める取組を行うことができた。	
次年度への改善点	

取組内容①

・タブレットの使用頻度が高まった反面、利用ルールが形骸化している現状がある。休み時間のゲームや授業中に関係のないアプリの使用など 不適切な利用が見られ、タブレット使用の約束が年度を通じて徹底されておらず、利用の境界線が曖昧になっている。そこで、来年度では、次の３点を軸にした再構築が必要だと考える。

○ルールを明確にし、児童と改めて確認する。

○ツールを使いこなすスキルだけでなく、情報リテラシーの指導を徹底する。

○一時的な注意に終わらせず、年間を通じてルールが守られる体制を整える。

取組内容②

・今後も継続して取り組む。

取組内容③

・会議時間短縮のために掲示板・個人連絡の活用を検討する。

・授業時数や行事の見直しを行う。

・業務量の調整を行う。

取組内容④

・学級文庫の入れ替えがしやすい環境を整える。学校司書に選んでもらったり、委員会の児童で運搬したりできるように連携をとる。

・調べ学習での活用をした学年もあるが、児童が自分たちで必要な本を探すことが難しかった。学習進度に合わせて棚の特集をしたり、一つの棚にまとめたりしていく必要がある。

・読書イベントの知名度が低かったので、集会や放送での呼びかけやポスターの貼付など周知方法について再検討する。